

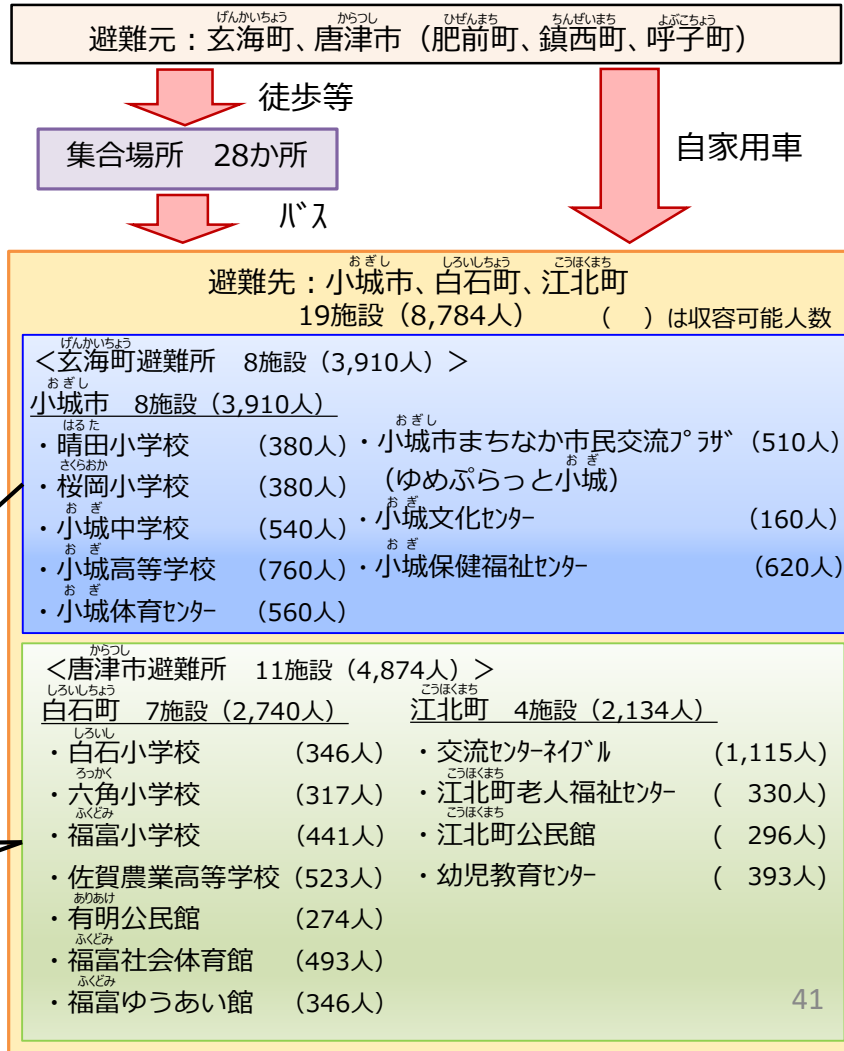
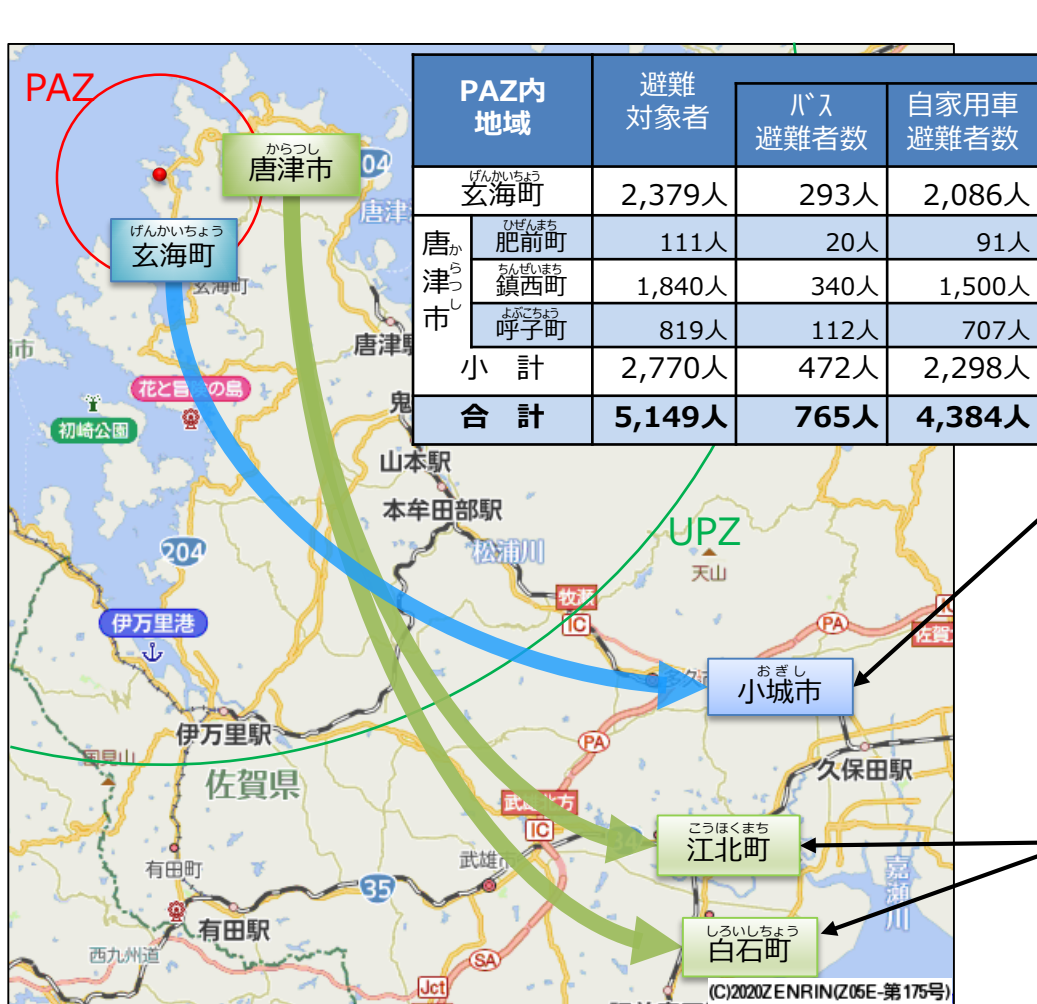
5. PAZ内の全面緊急事態 における対応

＜対応のポイント＞

1. 自家用車による避難ができない住民の移動手段(バス等)を確保し、避難を開始すること。
2. 避難先施設の受入れ体制を整えること。
3. 安定ヨウ素剤の服用等を指示すること。また、安定ヨウ素剤を持っていない者(紛失等)に、緊急配布すること。

PAZ内の住民の避難先及び避難住民数

- 玄海町及び唐津市におけるPAZ内の住民については、自家用車で避難できる住民は、自家用車によりあらかじめ定められた避難所に避難。
- 自家用車で避難が困難な住民は、徒歩等で集合場所に集まり、佐賀県、玄海町、唐津市が配車した車両で、避難所へ避難。
- 避難先については、普段から避難計画に関する広報や訓練等を通じて対象となる住民に周知。



※避難対象者数は、PAZ内住民の合計数から割り出した数字である。

➤ PAZ内の観光施設等における1日当たりの見込み人数は約2,200人、民間企業(従業員30人以上)は19社(約2,400人)存在。

PAZ内の観光施設の状況			
市町名	施設	入場見込人数※	
げんかいちょう 玄海町	げんかい 玄海I初ギ-パーク	709人	
	げんかい 玄海海上温泉パーク	249人	
からつし 唐津市	ひぜんまち 肥前町	—	
	ちんげいまち 鎮西町	なごや 名護屋城跡、はど 波戸岬等	1,245人
	よぶこちょう 呼子町	—	—
		合 計 2,203人	

※入場見込人数については、玄海町、唐津市が把握している最新のピーク時における1日当たりの入場者数を基に算定

PAZ内の民間企業（従業員30人以上）の状況			
市町名	企業数	従業員数	
げんかいちょう 玄海町	11社	1,949人	
からつし 唐津市	ひぜんまち 肥前町	1社	74人
	ちんげいまち 鎮西町	2社	76人
	よぶこちょう 呼子町	5社	284人
		合 計 (19企業) 2,383人	

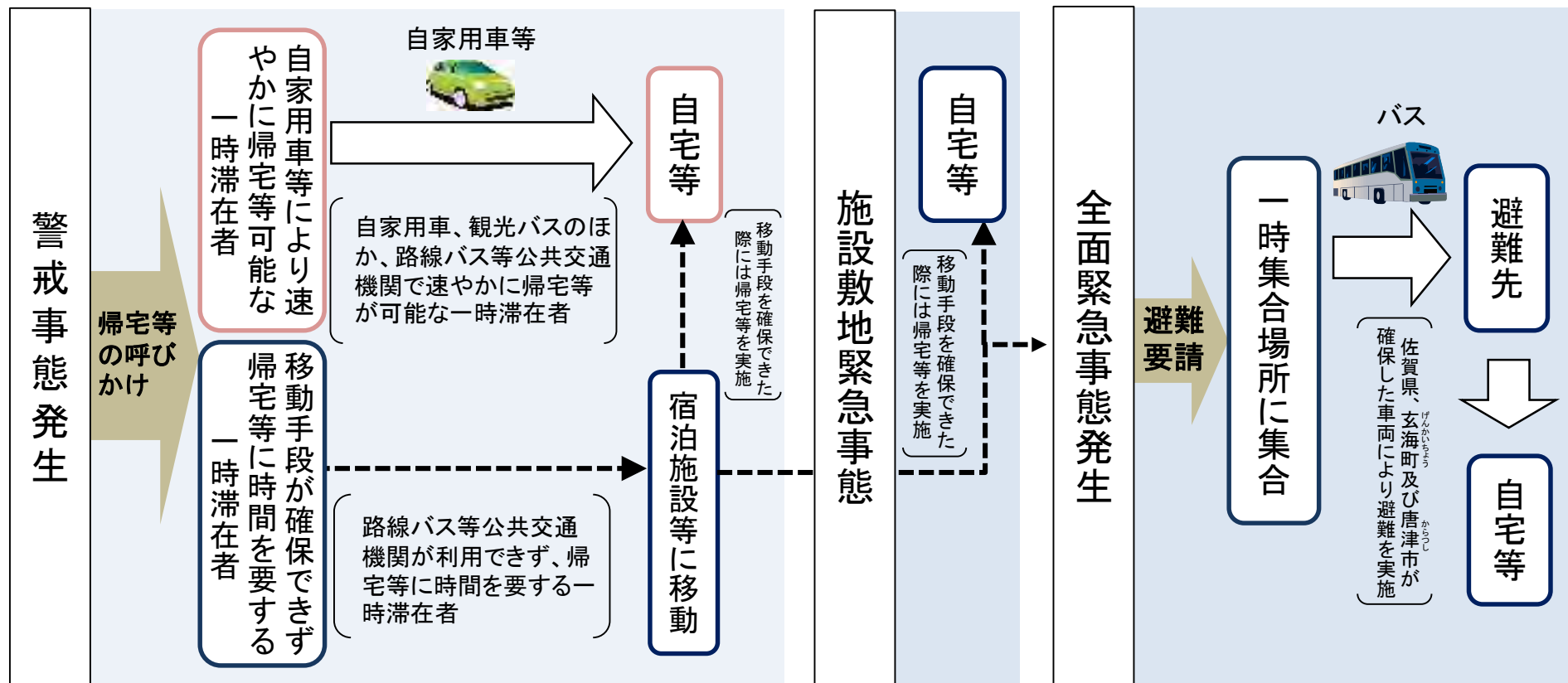
※民間企業に勤務する就労者は、通勤に使用する自家用車もしくはバスにより避難

【出典】平成28年経済センサス 活動調査 確報集計 町丁・大字別集計

PAZ内の観光客等一時滞在者の避難等

- 佐賀県、玄海町及び唐津市は観光客等一時滞在者に対し、警戒事態において帰宅等呼びかける。
- 自家用車等により速やかに帰宅等可能な一時滞在者は、警戒事態の段階で、自家用車等にて帰宅等を開始。
- 路線バス等公共交通機関も利用できない観光客など、帰宅等に時間を要する一時滞在者については、宿泊施設等に移動し、全面緊急事態の段階で避難を実施。避難の際には、徒歩等により一時集合場所に集まり、佐賀県、玄海町及び唐津市が確保した車両により避難を実施。

<観光客等一時滞在者の避難の流れ>



- ▶ 玄海町において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、341人分、バス11台。
- ▶ 佐賀県は、「災害時における緊急輸送に関する協定」※1に基づきPAZ内市町のバス会社が保有する車両により、必要車両台数を確保。
- ▶ 車両及び運転手については、佐賀県バス・タクシー協会等の協力により、更に余裕を持った台数・人数を確保。
- ▶ 各事業所の従業員の避難方法については各事業所単位で周知（施設敷地緊急事態で、自家用車により帰宅）。

げんかいちょう <玄海町における全面緊急事態で必要となる輸送能力>

	想定対象人数	想定必要バス数※2	備考
自家用車での避難ができない住民	293人	9台	【資料P41参照】
観光施設から避難する一時滞在者	48人	2台	1日当たりの観光施設の入場見込人数958人のうち、約95%が自家用車や観光バスで来場する想定で、その5%を想定対象人数として算入
合 計	341人	11台	

※1 佐賀県と一般社団法人佐賀県バス・タクシー協会（協力事業者26社）が、平成29年6月6日に締結
 ※2 バスは1台あたり46人の乗車を想定

げんかいちょう <玄海町における全面緊急事態での輸送能力の確保>

		確保車両台数	備考
		バス	
(A) 最大必要車両台数		11台	
(B) 車両確保台数		計11台以上	
確保先	PAZ内市町のバス会社が保有する車両	11台以上	PAZ内市町のバス会社が保有する車両194台のうち、施設敷地緊急事態で使用する64台の車両を除く、残りの130台の車両を使用

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合など、関係自治体の要請により実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）が必要に応じ支援を実施

- 唐津市において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、535人分、バス13台。
- 佐賀県は、「災害時における緊急輸送に関する協定」※1に基づきPAZ内市町のバス会社が保有する車両により、必要車両台数を確保。
- 車両及び運転手については、佐賀県バス・タクシー協会等の協力により、更に余裕を持った台数・人数を確保。
- 各事業所の従業員の避難方法については各事業所単位で周知（施設敷地緊急事態で、自家用車により帰宅）。

からつし ＜唐津市における全面緊急事態で必要となる輸送能力＞

	想定対象人数	想定必要バス数※2	備考
自家用車での避難ができない住民	472人	11台	【資料P41参照】
観光施設から避難する一時滞在者	63人	2台	1日当たりの観光施設の入場見込人数1,245人のうち、約95%が自家用車や観光バスで来場する想定で、その5%を想定対象人数として算入
合 計	535人	13台	

※1 佐賀県と一般社団法人佐賀県バス・タクシー協会（協力事業者26社）が、平成29年6月6日に締結

※2 バスは、地域特性を踏まえ、3種類の乗車人数（大型バス：46人乗り、中型バス：35人乗り、小型バス：20人乗り）を想定

からつし ＜唐津市における全面緊急事態での輸送能力の確保＞

		確保車両台数	備考
		バス	
(A) 最大必要車両台数		13台	
(B) 車両確保台数		計13台以上	
確保先	PAZ内市町のバス会社が保有する車両	13台以上	PAZ内市町のバス会社が保有する車両194台のうち、施設敷地緊急事態で使用する64台の車両を除く、残りの130台の車両を使用

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合など、関係自治体の要請により実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）が必要に応じ支援を実施